



サルビア ニューディメンション・シリーズ

学名: *S. nemorosa*

種子粒数の目安:

ブルー: 1,000 から 1,100 粒(フィルムコート)/グラム

ローズ: 600 から 750 粒(フィルムコート)/グラム

開花特性と要因

- 初年開花の特性を有する宿根品種
- 開花は日長時間に影響を受ける。長日開花植物であり、日長限界は 14 時間
- 低温処理(バーナリゼーション)は不要
- 開花時期:
 - 3 月中旬播種の春生産の場合、6 月中旬から下旬に自然開花する
 - 7 月中旬から下旬に播種して越冬させる場合、翌年の 5 月下旬から 6 月上旬に開花する

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しいプラグ用培地を使用する。培地の pH は 5.5 から 6.2、また EC は 0.75 mmhos/cm とする

播種

288 穴、またはそれよりも大きな容積のトレイに 4 粒播種する。越冬させる場合や早春にかかる作型では、ヨーロッパで用いられる 180 穴トレイ(あるいは同等の容量サイズ)に 4 から 6 粒、播種する。播種後は、パーミキュライトで軽く覆土する

※ *Alternaria/Phoma*(アルテルナリア/フォーマ)などによる立枯れを防止するため、殺菌剤を散布する

ステージ 1 - 発芽日数は概ね 3、4 日

地温: 20 から 22°C

光条件: 発芽時、光はオプション(任意)

水分: ステージ 1 では、水分レベルを標準/中庸(level 3)で維持する

湿度: 幼根が発生するまでは相対湿度を 95 から 97%とする

ステージ 2

地温: 18 から 20°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 水分レベル標準/中庸(level 3)を維持し、根が培地中をしっかりと行き渡るように促す。培地を乾かさないうちに注意する

肥料: この段階では肥料を与えない。サルビアはプラグ育苗の初期段階では、高レベルの塩類にひじょうに敏感である。本葉が出揃うまでは施肥はしない(EC は 0.5 以下とする)

ステージ 3

地温: 18 から 20°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 次の水やりまでに培地の表面が薄茶色に乾くようなやや乾燥(level 2)の状態を管理する。水分レベルは、ウェット/ドライ(level 3 と level 2)の間を繰り返すようにする

肥料: 硝酸態肥料をレート 2(100 から 175ppm (N) 、EC: 0.7 から 1.0mmhos/cm)の濃度で与える

矮化剤: 不要である

ステージ 4

地温: 18 から 20°C

光条件: 温度条件が適正な範囲であれ 53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで可能

水分: ステージ 3 と同様

肥料: ステージ 3 と同様

鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ

10 から 13cm ポット: 1 本(1 プラグ)植え

17 から 23cm コンテナ: 3 から 5 本(3 から 5 プラグ)植え

用土(培地)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.2、初期養分は中庸(EC: 0.75mmhos/cm)とする

生産中の窒素管理

初期(前半ステージ)	N = 0.8 から 1.0
終期(後半ステージ)	N = 1.2 から 1.3

温度

昼間温度: 16 から 22°C

夜間温度: 10 から 15°C

※ 冬越しの期間中は、外部環境から保護された、2 から 3°Cの温度条件下におかれることが望ましい

光条件

生産期間中は、なるべく光を十分にあてるようにする。補助的な電照等は不要である

日長条件との関係

この品種は長日植物である。14 時間、あるいはそれ以上の日長条件で最も早く、またばらつきなく開花する。日長限界はだいたい 14 時間

かん水

培地の水分は標準/中庸(level 3)からやや乾燥(level 2)を維持する。極端な過湿や乾燥は避けなければならないが、培地を乾かし過ぎないように十分に注意する

越冬する作型においては、根への損傷や防疫上の点からも、寒冷期の間は乾燥ぎみの管理を続ける

肥料

レート 1 からレート 2(100 から 125 ppm(N), EC:1.2 から 1.5mS/cm)の中位からやや薄い濃度の肥料を与える。pH は 5.5 から 6.2 を維持する

※ 窒素とカリウムの比率は、初期は N:K=1:1 として、後期では N:K=1:2 のようにカリウムの比率を上げる

矮化剤(PGR)

低温条件の下での生産管理が可能であれば、概して矮化剤は不要である。必要であれば、ニューディメンション・シリーズは B ナインによく反応する。移植後、10 日から 14 日の時点で 2,500 ppm で処理する。生育具合、また温度や光条件などを見ながら、必要であればその 2 週後に再度、処理を行う

ピンチ

一年生生産: ピンチは不要である

二年生(越冬)生産: 冬に入る前に花が上がった場合はそれらを刈り込む

※ 冬に入る前にピンチする場合は、あまり低い位置ではならない(最低でも地際の中央から 8 から 10cm)。また遅くなつてからのピンチも病気などに感染しやすくなため、してはいけない

スペーシング

個体間の葉どうしは触れはじめたら適宜スペースをとる

平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴トレイ): 5 から 6 週

播種から移植まで(180 穴トレイ): 6 から 7 週

【一年生の作型期間】

移植から開花まで(288 穴):

- ブルー: 9 から 11 週
- ローズ: 8 から 10 週

播種から開花まで: 13 から 15 週

※ 適切な日長と温度範囲を条件とする

【越冬による作型期間】

移植から開花まで: 32 から 38 週

播種から開花まで(288 穴トレイ): 38 から 44 週

【春生産の作型スケジュール】

播種: 3 月中旬 → 開花: 6 月中/下旬

【越冬生産の作型スケジュール】

播種: 7 月中/下旬 → 開花: 翌年 5 月下旬から 6 月上旬

※ 越冬生産の場合、年内に花が上がってくることがあるので、あまり早く播種してはいけない

病例等

害虫: ハダニ、アブラムシ、スリップス、ホウライフライなど

病気: リゾクトニア、リーフスポット、ピシウム、フィトフイラ、ボトリティスなどの細菌感染や、過湿では成長点や根の軟腐病など。またウドンコ病にも注意する

生理上の特性: 葉色の状態や葉の質を高めるためには、硫酸マグネシウム溶液(1グラム/L)が有効。移植から 2 週後に原則、週 1 回投与する

定植場所や配置について

- ニューディメンション・シリーズは初年開花する宿根品種。USDA 耐寒性指標はゾーン 4-7(最低温度マイナス 30°C)
- 定植時は、株間を 25 から 30cm とって、水はけのよい土へ植える

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合もあります。



Kieft-Pro-Seeds